

国語科学習指導案

指導事項

目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらい読んだりすること。

今回の取り組み（挑戦）

- ・フレームリーディングという文章の内容や構造を丸ごととらえる読みの手法を活用し、教師や子どもがワクワクしながら授業に取り組めるよう、授業改善をしていく。
- ・主語に着目して文章構成を読む。（筆者がいかにかに計算してこの文章を書き、読み手に納得してもらおうとしているかという、筆者の意図をとらえる学習）

1 教材名 「ぼくの世界、君の世界」 教育出版

2 目標

筆者の考えに気をつけながら、文章の要旨を捉え、「心の世界」について考えることができる。

3 学習計画

一次：文章のおよその内容をつかみ、感心したことや納得したことをイメージマップにまとめ、意見を交流することができる。 ①

二次：事例の数を数えることで、意味段落のまとまりを見渡す。 ①

取り上げた事例を要約し、筆者の考えを理解する。 ①

主語の種類を数えることで、前時に学習した事例の段落と主語のつながりをとらえる。

①

事例以外の段落の内容を整理し、主語と対応させて文章全体の構成をつかむ。 ①

三次：文章の要旨をまとめて書く。 ①

「ぼくの世界、君の世界」を読んで考えたことをもとに、感想文を書く。 ①

4 8時間予定（計画より1時間増）

読み取り：6時間

書く：1時間

伝国・テスト：1時間

1時間目

文章のおよその内容や感想をイメージマップにまとめることができる。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 本単元のめあて「文章の要旨をとらえ、「心の世界」について考えましょう」を確認する。	5	・黒板にめあてを書き、ノートに試写させる。 ・心の世界について理解させていくために、作者「西研」さんについて説明する。①哲学者であること。②哲学者とは、人間の心と行動の不思議さについて考え研究している人である。	

2 要旨という学習用語の意味の確認をする。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ p 47のここが大事を活用して、要旨についての理解をさせておく。前半のみ読む。 要旨とは、筆者が文章をとおして言い表そうとした「大事なこと」 	
3 本時のめあて、「文章のおよその内容や感想をイメージマップにまとめよう」を視写する。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを視写させ、本日の学習の見通しを持たせる。 	
4 本文の範読を聞く。	7	<ul style="list-style-type: none"> ・全文の範読を聞くときに、およその内容や感想を考えながら聞くことを伝えておく。 	
5 イメージマップ およその内容や感想をまとめる。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・文章でまとめることに抵抗感を感じない児童もいると思うので、イメージマップを活用する。 ・机間支援の際には、心の世界、要旨について書かれているものについてはめあてが意識できていることを賞賛する。 	およその内容や感想をイメージマップにまとめている。 (イメージマップ、つぶやき) 読む
6 イメージマップをもとに交流する。 (まずは見せ合う) ノートの読み合い2 ↓ イメージマップへの付け足し 3 一斉の交流 10	13	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに、発言させず、交流をする。交流のさせ方は、席を立たせ、ノートを読ませてもらう交流を行う。時間は2分程度。席につかせた時に、自分のイメージマップに付け足しをさせる。その際には、交流後に書き入れたことがわかるようにさせておく。上手な交流ができていた人を紹介する。この活動を入れることにより、自分のよさや不十分さに気づかせ、次時の学習への意欲にもつなげていきたい。 	
7 本時の学習の自己評価をする。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてにもどり、自己評価をさせる。 	

2時間目 事例の数を数えることで、意味段落のまとまりを見渡す。また、一番大事な段落を考えることで、段落の役割をつかむ。(この文章は尾括型)

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 本時のめあて この文章で筆者の主	3	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板にめあてを書き、ノートに試写させる。めあてを提示することにより、次の活動である音読の目的意 	

張りたいことは、文章のどこに書かれているか考える。		識を持たせていく。集中して試写する習慣が身に付くように、2分程度たったら、音読を開始することを予告しておく。	
2 本文の音読をする。	7	・全文を微音読させる。きちんと読むことが、内容を理解する上で基礎となることを伝える。	
3 形式段落に番号をつける	5	・形式段落に番号をつける。2 2段落あることを確認する。 ・段落とは、文章中の内容のひとまとまりであること、いくつかの文が集まって段落ができていること、段落の始めは一字下げで書き出し、その段落が終わると行を変えることを、既習事項として確認する。(3年生の教科書で説明してある。)	
4 筆者の主張したいことが書かれている段落を選び、その理由をノートに書き一斉で確認する。	10	児童に、段落を一つ選ばせ、その理由をノートに書かせる。 尾括型	筆者の主張したいことが書かれている段落を選び、理由を書いている。(ノート・観察) 読む
5 筆者は主張したいこと(結論)を導くためにいくつかの事例を取り上げているか整理しノートにまとめる。	10	① 電球の話 ①～⑤ ② チョコレートの話 ⑧～⑩ ③ お腹の痛みの話 ⑪ ④ 好きなアニメの話 ⑮～⑰	
6 筆者の事例の並べ方のよさを考える。	5	・筆者の小学4年生の事例が、なぜ一番初めに紹介されているのか、そこにはどのような効果があるのか考えさせていきたい。	
7 本時の学習の自己評価をする。	2	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

3時間目 取り上げた事例を要約し、筆者の考えを理解する。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 本時のめあて「事例を要約」することができる。	3	・黒板にめあてを書き、ノートに視写させる。集中して試写する習慣が身に付くように、2分程度たったら、音読を開始することを予告しておく。	
2 本文の音読をする。	10	・全文を通読させる。読むときに、歯切れ良く音読することが、内容を理解する上で基礎となることを伝える。 ・本時で取り扱う段落をもう一度音読する。	
3 事例の要約をする	15	・要約とは、文章や話の全体、または一部を短くまと	4つの事例

る。		<p>めること。</p> <p>① もとの文章や話の大事な言葉や文、組み立てを使う。</p> <p>② 自分の言葉で短く言いかえる文 今回は①の方法を使う。</p> <p>・手順</p> <p>① 一番大切なことが書かれている段落を選ぶ。</p> <p>② 中心文を選ぶ。</p> <p>③ 主語を決めてまとめる。</p> <p>*ノートの整理の仕方 一行目 大事な段落の番号記入 二行目～ 中心文をノートに書きだす。 主語を決めて、要点をまとめる。 (全体で確認する前に、ペア学習・グループ学習などが入ると、交流活動になる。はばプラ)</p>	についてまとめている。
4 事例の要約について確認する。	15	<p>(全体で確認する前に、ペア学習・グループ学習などが入ると、交流活動になる。はばプラ)</p> <p>電球</p> <p>・4段落を整理する。</p> <p>あまみ・痛み</p> <p>12段落を整理する。</p> <p>アニメ</p> <p>18段落を整理する。</p>	
5本時の学習の自己評価をする。	2	<p>・めあてにもどり、自己評価をさせる。</p>	

4 時間目

主語の種類を数えることで、前時に学習した事例の段落と主語のつながりをとらえる。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 本時のめあて「主語の種類を数えて整理しよう」を確認する	3	<p>・黒板にめあてを書き、ノートに試写させる。集中して試写する習慣が身に付くように、2分程度たったら、音読を開始することを予告しておく。</p>	
2 本文の音読をする。	7	<p>・全文を微音読させる。その際、音読の後、この文章中に、「ぼく」「君」など人を表す主語について調べていくことを予告しておく。</p>	
3 ノートに①から22までを書き、その下に主語を整理させていく。	10	<p>・①～⑤ ぼく (電球事件)</p> <p>・⑥ 哲学を研究する人たちの世界では</p> <p>・⑦～⑩ 君と友達が (あまみ・痛み)</p> <p>・⑪ (読み手)</p>	

		<ul style="list-style-type: none"> ・⑬ 私は、人と人は (問い) ・⑭ ぼくは (答え) ・⑮～⑯ 君と友達が (アニメ) ・⑰ 自分と相手が (事例のまとめ) ・⑱～⑲ わたしたちは (事例のまとめ) ・⑳ ぼくは ・21 わたしたちは ・22 人は 	
4 主語と事例を対応させ、文章の仕組みについて考えていく。	1 5	・本時で確認した主語と、前時の学習の事例の数などを対応させ、文章の仕組みについて理解させていく。	
5 本時の学習の自己評価をする。	5	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

5 時間目

事例以外の段落の役割を考え、文章全体の構成をつかむ。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 本時のめあて「事例以外の段落の役割を考えよう」を確認する	3	・黒板にめあてを書き、ノートに試写させる。集中して試写する習慣が身に付くように、2分程度たったら、音読を開始することを予告しておく。	
2 本文の音読をする。	7	・全文を微音読させる。事例以外の段落の役割を意識しながら読むように指示をしてから微音読させていく。	
3 事例以外の段落を確かめる。	1 5	<ul style="list-style-type: none"> ・⑥ 哲学を研究する人たちの世界では ・⑬ 私は、人と人は (問い) ・⑭ ぼくは (答え) ・⑰ 自分と相手が (事例のまとめ) ・⑱～⑲ わたしたちは (事例のまとめ) ・⑳ ぼくは ・21 わたしたちは ・22 人は 上記の段落の役割を、ノートにまとめさせていく。分かるところからやらせてよい。	
4 段落の役割について考えの交流をする。 ・ノートの読みあい3 ・自分のノートにつけ	1 5	<ul style="list-style-type: none"> ・⑥ つなぎ ・⑬ 問い ・⑭ 答え ・⑰～22 事例のまとめ *まとめ	

たし ・意見の交流 ・まとめ	2 5 5		事例でも、問いでも、	
5 本時の学習の自己評価をする。	5		・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

*この時間は、文章全体の構成を見渡せるようになるための時間です。場合によってはカットしても大丈夫です。授業の構想がもう一つしっかりしていません。修正案が必要です。

6時間目 文章の要旨をまとめて書く。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 本時のめあて 「文章の要旨をまとめて書こう」	3	・黒板にめあてを書き、ノートに視写させる。集中して試写する習慣が身に付くように、2分程度たったら、音読を開始することを予告しておく。	
2 p47のここが大事を音読し、要旨をとらえるイメージをつかむ。	5	・要旨の意味を正確に理解させていくことにより、本時の学習の見通しをもたせたい。	
3 要旨をまとめる。	15	① もとの文章や話の大事な言葉や文、組み立てを使う。 ② 自分の言葉で短く言いかえる文 今回は①の方法を使う。 ・手順 ① 一番大切なことが書かれている段落を選ぶ。 ② 要旨に関係する言葉を選ぶ。 ③ 主語を決めてまとめる。 *ノートの整理の仕方 一行目 大事な段落の番号記入 二行目～ 重要語句を選ぶ。 主語を決めて、要旨をまとめる。 (全体で確認する前に、ペア学習・グループ学習などが入ると、交流活動になる。はばプラ)	要旨をまとめている。
4 要旨について確認する。 交流2 段落、重要語句確認3 発表 10	15	全体で確認する前に、ペア学習・グループ学習などが入ると、交流活動になる。はばプラ)	
5 本時の学習の自己評価をする。	2	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

7時間目 「ぼくの世界、君の世界」を読んで考えたことをもとに、感想文を書く。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 本時のめあて 「ぼくの世界、君の世界」を読んで考えたことをもとに、感想文を書こう	3	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板にめあてを書き、ノートに視写させる。 	
2 p 48を読んで、感想文の書き方について見通しをもつ。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ p 48を音読することにより、本時の学習の見通しをもたせていく。 ・条件 200文字～400文字 ・書き出し どちらかを選択する。 ・文の構成の参考 <ul style="list-style-type: none"> ① 初めの感想 ② 学習をしながら考えたこと ③ 要旨をまとめて思ったこと 	
3 感想文を書き推敲する。	20	<ul style="list-style-type: none"> ・感想文を書き、推敲する。 感想15分、推敲5分	
3 読み合いを行う。 (自由に)	10	<ul style="list-style-type: none"> ・10分で、①3人以上の感想文を読ませてもらうこと、②読み合いをするときは、③2人組で席について行うこと。ノートに評価することを条件とする。 ・評価については、読ませてもらったお礼に名前を書く。考えが似ていた○ 考えが違ったら△をつけさせていく。 ・友達の感想文を読ませてもらったの感想を聞く。 ・最後に、内容が充実している感雄文が書けていた児童を意図的指名する。その後、教師が作品のよさを伝える。 	友達の感想文を読み、自分のよさや、友達との類似点、相違点に気づいている。(ノート、
4 単元を振り返り、学んだことや思ったことをノートに書いたり、発表したりする。	7	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間目から5時間目までの、説明文の読み取りについての感想が中心となるとよい。 ・ここでも、まずペア学習、その後一斉での発表をさせていく。(はばプラ交流) 	上記の評価は、単元の振り返りのノートへの記述で確認する。(ノート・観察) 関心・意欲